

## 「地域を見える化する」エコクラブ活動はヘルスプロモーションの役割を果たしたか ～5年の活動を振り返って～

山内エコクラブ 竜王真紀

【問題提起】山内エコクラブは、人々を取り巻く環境や地域コミュニティの在り方まで視野を広げ、対話を重視した健康な地域づくりと地域の良さの「見える化」をめざして、誰もが参加できる活動を展開してきた。この活動は、はたして地域の元気（健康）づくりにつながったのか。

【目的】「人々の絆」「隔たりのない社会」は、「みんなが健康でいられる社会づくり」につながっており、健康増進に有効であることが報告されている。

当クラブの5年の活動を振り返り、実践したことをヘルスプロモーション的要件に置き換えて、公衆衛生の視点から検証したので報告する。

### 【方法】

オタワ憲章のヘルスプロモーションの要件である5つの優先課題をと当エコクラブ5つの見える化サイクル（調査→ツールづくり→発信・交流→企画者となる）の事業を照合した。

表1 オタワ憲章のヘルスプロモーション5つの優先課題

健康的公共政策を確立すること	保健医療の範疇を越えるもので、すべての部門やレベルで政策形成者の検討課題に健康の視点を置き、その決定が健康面に及ぼす結果に気づかせ、健康に対する責任を認めるよう導いているか。
支援的環境を創造すること	コミュニティに共通する全体的な指導原則とは、相互に支援しあって維持していくことを推進する事の必要性であり、互いに助け合い、自らのコミュニティや自然環境を大切にしているか。
個人的スキルを開発すること	健康についての情報や教育を提供し、ライフスキルを高めることによって、個人や社会の発展を支援しているか。
コミュニティの活動を強化すること	健康を実現するために、優先課題を設定し、意志決定を行い、戦略を立て、実行する中での、具体的で効果的なコミュニティ活動によって成果を上げられるものであるか。
保健医療サービスの見直し	個人や、コミュニティ・グループ、保健医療専門家、保健医療サービス機関が、共にその責任を分かち持っている。健康の実現追究に貢献できるヘルスケアシステムにむけて協働できているか。

【結果】5年前に始まった子どもたちの「川調べ、高齢者の聞き取り、地域の民意伝承に基づくジャンボ絵本、創作狂言」、地域の中老年女性の料理グループ、介護予防ハンドベルグループ、いきものみつけファーム推進協議会の立ち上げ等には、対話を重視し、楽しみながら参加できるように心がけてきた。

まず、調査については、地域を知るために、自然観察だけでなく地域の古老への聞き取りなどをして、叡智を集めた。古老が持つ叡智は、昔ながらの「支えあい」「助け合い」で成り立っており、里山の知恵として暮らしに息づいていることが分かった。また、聞き取り調査では、古老の脳裏に刻まれた記憶を引き出すことで昔の地域の様子がイメージできるとともに、古老が語り部として活躍することが自身の生きがいにつながることを確認できた。

ツールづくりでは、子どもたちがコミュニティへの働きかけへの一歩となるよう制作プロセスを大切にしました。これを発信し、他者と交流することで、自分達の地域への愛着心がさらに深まり、新たな自信と誇りにつながっているように思われる。さらに、参加した子どもたちが、次は企画者になっていくことで、地域のリーダーとして期待される存在となっている。このように、当エコクラブが行なう活動全体が、健康づくりや介護予防として相乗効果を発揮していると地域に認知されつつあり、ヘルスプロモーションに整合しているものである。

【課題】「住民参加→対話→作業→問題解決→価値創造→楽しみ→自信→生きがい」への進化と発展には、田舎ならではの付き合いやつながりが大きく影響する。そこで、個人の行動変容に加え、地域全体としてのヘルスプロモーションへとつなげていくには、「つながり」や「つきあい」「おかげさま」などを丹念に見ていく必要がある。行政はもちろん、産業、環境、文化、教育等の関係機関が横断的につながり、住民が「社会における人々の結束から健康が得られる」ことを主体的に感じられるようなくみづくりを模索していきたい※ヘルスプロモーション：人々が自らの健康をさらにうまくコントロールし、改善していけるようになるプロセスである。健康的なライフスタイルをさらに越えて、幸福にまで及ぶものである